

平成8年度作況一覧

秋播小麦	春播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
平年並	不良	やや不良	不良	不良	良	やや良

1. 気象概況

平成7年9月から平成8年10月までの概況は次のとおりである。

平成7年9月：

平均気温は上・中旬が低く、下旬が高かった。降水量は上・中旬が少なかった。日照時間は平年並であった。

10月：

平均気温は上旬が低く、中、下旬が高かった。降水量は上旬と下旬が少なかった。日照時間は上・中旬がやや少なかった。初霜は10月28日で、平年より7日遅かった。

11月：

平均気温は上旬がやや低く、中旬が高かった。降水量は上、中旬が少なく、下旬が多かった。日照時間は1ヶ月を通じて少なかった。

12月：

平均気温は上旬がやや高く、中・下旬は平年並であった。降水量は上旬がやや少なく、中旬が多かった。日照時間は上旬が平年並、中・下旬は少なかった。根雪始は平年より6日遅い12月12日であった。

平成8年1月：

平均気温は上・中旬は平年並、下旬は低かった。降水量は上旬が多く、中・下旬は平年並であった。日照時間は1ヶ月を通じて少なかった。

2月：

平均気温は上・中旬がやや低く、下旬が高かった。降水量は上旬がやや多く、中・下旬は少なかった。日照時間は1ヶ月を通じて少なかった。

3月：

平均気温は上旬がやや低く、中・下旬は平年並であった。降水量は1ヶ月を通じてほぼ平年並であった。日照時間は1ヶ月を通じて少なかった。

4月：

平均気温は上・中旬が低く、下旬はやや高かった。降水量は1ヶ月を通じて少なく、特に下旬は少なかった。日照時間は中旬がやや少なかった。根雪終は4月17日で、平年より14日遅かった。

5月：

平均気温は上・中旬が低く、下旬がやや高かった。降水量は上旬が多く、中・下旬はやや少なかった。日照時間は少なかった。

6月：

平均気温は1ヶ月を通して低かった。降水量は上旬は多く、中旬はやや多く、下旬は平年並であった。日照時間は上旬は多かったが、中・下旬は少な目に経過した。

7月：

平均気温は上・下旬は低め、中旬は高めに経過した。降水量はやや多く、特に中旬が多かった。日照時間は1ヶ月を通して少なく、特に下旬が少なかった。

8月：

平均気温は中旬はやや高かったが、上・下旬は低かった。降水量は上旬が多く、中・下旬は平年並であった。日照時間は上旬は少なく中旬は平年並、下旬はやや多かった。

9月：

平均気温は上旬は低かったが、中・下旬は高めに経過した。降水量は上旬はやや多かったが、中・下旬は少なかった。日照時間は上・中旬は少なく、下旬は平年並であった。

10月：

平均気温は中旬が低め、上・下旬は高めに経過した。降水量は上旬は多く、中・下旬は平年並であった。日照時間は1ヶ月を通して平年並～やや少なかった。初霜は10月16日で平年より6日早かった。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が2,890℃で平年より189℃低かった。降水量は674mmで平年より65mm(平年対比111%)多かった。日照時間は959時間で平年より291時間(平年対比77%)少なかった。

季節表

年次	根雪始 (7年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12.12	4.17	127	4.18	4.26	4.3	10.16	169	10.16
平年	12.6	4.3	118	4.2	4.23	5.5	10.22	170	11.3
比較	6	14	9	△2	3	△5	△6	△1	△17

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目 期間	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)	
4～ 10月	本年	2,890	3,818	1,979	674	959
	平年	3,079	4,134	2,060	609	1,250
	比較	△189	△316	△81	65	△291
5～ 9月	本年	2,451	3,092	1,832	520	657
	平年	2,570	3,339	1,845	453	899
	比較	△119	△247	△13	67	△242

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

2. 平成8年度の作況

1. 秋播小麦 平成8年度の作況: 平年並

事由: 播種時の不順な天候により、播種は平年より8日遅い9月18日に行った。出芽は比較的良好で、出芽期は平年より9～10日遅かった。播種期の遅れから越冬前の生育は平年を下回った。根雪始は平年より6日遅い12月12日、供試圃場の融雪期は4月11日(融雪剤散布)で積雪期間は121日間で平年より3日短かった。

雪腐病は褐色小粒菌核病の発生が主体で部分的に褐色雪腐病の発生もみられたが、いずれの品種も平年より雪腐病の発病程度はやや小さかった。融雪後、気温は平年並から平年より低く経過したため、草丈はいずれの品種も平年を下回ったが茎数は平年を上回って推移した。出穂期は平年より8～10日遅れで、出穂後、7月上旬まで低温・寡照が続いたが開花は比較的良好であった。成熟期は平年より6～8日遅れた。成熟期の稈長は平年並から平年よりやや低く、穂長は「タクネコムギ」が平年を上回ったが「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」はほぼ平年並であった。穂数は「チホクコムギ」が平年をやや上回ったが、「ホロシリコムギ」は平年並、「タクネコムギ」は平年をやや下回った。登熟期間が平年よりやや短縮されたため、千粒重は「タクネコムギ」を除いて「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」は平年を下回った。「ホロシリコムギ」の子実重は千粒重が平年を下回ったため平年対比92%と低収となったが、「タクネコムギ」は穂数が平年を下回ったものの穂長、千粒重は平年を上回り、「チホクコムギ」は穂数が平年を上回ったため子実重の平年対比は104～110%と多収となった。検査等級は「タクネコムギ」が平年を下回ったが、「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」は良好であった。

以上により、平成8年度の作況は、品種によって傾向を異にするが3品種を込みにして平年並である。

品種名 項目/年次		ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(平7.月.日)		9.18	9.1	8	9.18	9.1	8	9.18	9.1	8
出芽期(平7.月.日)		9.27	9.18	9	9.27	9.17	10	9.27	9.18	9
出穂期(月.日)		6.17	6.9	8	6.1	5.31	10	6.17	6.9	8
成熟期(月.日)		7.3	7.23	7	7.24	7.16	8	7.28	7.22	6
草丈 (cm)	平7.10月20日	20.6	22.6	△ 2.0	20.3	23.6	△ 3.3	20.8	24	△ 3.2
	5月20日	29.7	49.5	△ 19.8	31.1	49.5	△ 18.4	30.3	46.3	△ 16.0
	6月20日	90	103	△ 13	101	102	△ 1	84	92	△ 8
茎数 (本/㎡)	平7.10月20日	763	1025	△ 262	838	1159	△ 321	837	1129	△ 292
	5月20日	1355	1015	340	1389	1102	287	1412	1046	366
	6月20日	655	576	79	810	728	82	877	625	252
成熟期に おける	稈長(cm)	92	96	△ 4	91	95	△ 4	86	87	△ 1
	穂長(cm)	8.4	8.6	△ 0.2	8.2	7.6	0.6	6.9	7.2	△ 0.3
	穂数(本/㎡)	487	494	△ 7	653	694	△ 41	629	588	41
子実重(kg/10a)		450	490	△ 40	409	394	15	488	445	43
リットル重(g)		752	758	△ 6	782	788	△ 6	726	744	△ 18
千粒重(g)		43.3	45.3	△ 2.0	38.9	38	0.9	38.3	39.6	△ 1.3
品質(等級)		1	1	—	2中	1	—	1	2上	—
子実重平年対比(%)		92	100	△ 8	104	100	4	110	100	10

注) 平年値は前7か年中、平成2年、4年(各収穫年度)を除く5か年平均。

2. 春播小麦 平成8年度の作況:不良

事由:播種は平年より3日遅い5月1日に行った。播種直後に降雨があったが地温が低く、出芽は緩慢で、平年より2日遅い5月15日に出芽期に達した。5月下旬から6月上旬にかけての少雨により、それまで過湿であった圃場が乾燥により過度に緊密化し、生育が停滞した。このため、出穂期は平年より5～6日遅かった。6月中旬以降の寡照により稈はやや軟弱であったが、圃場が適湿に推移したため茎の有効化が進み、両品種とも成熟期における穂数は平年よりかなり多かった。全般的な低温により登熟期間が延長し、成熟期は平年より9～10日遅かった。

しかしながら、寡照と、多雨による赤かび病の著しい発生により、登熟は著しく劣り、千粒重が著しく小さく、また屑粒が多かった。このため、子実重は著しく劣り、平年対比46～53%の低収となった。リットル重、品質(等級)も劣った。

以上により、平成8年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	ハルユタカ			春のあけぼの		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)	5.1	4.28	3	5.1	4.28	3
出芽期(月.日)	5.15	5.13	2	5.15	5.13	2
出穂期(月.日)	7.2	6.26	6	6.3	6.25	5
成熟期(月.日)	8.14	8.5	9	8.19	8.9	10
6月20日 (参考)						
草丈(cm)	41	56	△15	46	60	△14
茎数(本/㎡)	556	733	△177	559	644	△85
成熟期に おける						
稈長(cm)	76	80	△4	78	81	△3
穂長(cm)	8.2	8.3	△0.1	7.6	8	△0.4
穂数(本/㎡)	600	467	133	582	458	124
子実重(kg/10a)	143	308	△165	176	330	△154
リットル重(g)	715	768	△53	745	788	△43
千粒重(g)	27	39.5	△12.5	28.2	40.8	△12.6
品質(等級)	等外	2	—	等外	2上	—
子実重平年対比(%)	46	100	△54	53	100	△47

注) 平年値は前7か年中、平成5年、7年を除く5か年平均。

ただし、6月20日の平年値は「ハルユタカ」は平成3年、4年、6年の3か年平均、

「春のあけぼの」は平成6年の値で、いずれも参考値である。

3. 大豆 平成8年度の作況:やや不良

事由:播種期は平年より10日遅い5月28日であった。播種後干ばつ気味に経過したため、出芽の揃いが著しく遅れ、出芽期は「ユウヒメ」では平年より15日、「ユウヅル」では10日遅く、「ツルムスメ」は出芽個体が著しく少なく、出芽期は確認できなかった。出芽後6月下旬～7月上旬は低温・寡照に経過したため、各品種の開花期は平年より大幅に遅れた。7月下旬以降気温はほぼ平年並みに経過したため生育は急速に回復したが、日照不足のためやや徒長気味の生育となり、「ユウヒメ」、「ツルムスメ」の主茎長は平年を上回った。「ユウヅル」の主茎長は平年並であった。主茎節数、分枝数は各品種ともほぼ平年並であった。成熟期は「ユウヅル」では平年より3日早かったが、「ユウヒメ」、「ツルムスメ」は平年並であり、各品種とも登熟期間は平年より約2週間少なかった。収量構成要素のうち、着莢数は「ユウヒメ」はほぼ平年並であるが、「ユウヅル」では平年を25%下回った。各品種とも一莢内粒数は平年を上回り、百粒重は平年より軽かった。この結果、子実重は「ユウヒメ」が329kg/10aで平年対比103%、「ユウヅル」は315kg/10a、同96%であった。両品種の品質(検査等級)は裂皮が少なかったこと等により良質であった。「ツルムスメ」の子実重は282kg/10aで平年対比90%であり、青未熟粒が多かったため品質は劣った。以上により、平成8年度の作況はやや不良である。

品種名 項目/年次	ユウヒメ			ユウヅル			ツルムスメ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月・日)	5.28	5.18	10	5.28	5.18	10	5.28	5.28	10	
出芽期(月・日)	6.21	6.6	15	6.16	6.6	10	—	6.6	—	
開花期(月・日)	8.5	7.21	15	8.8	7.28	11	8.2	7.2	13	
成熟期(月・日)	10.5	10.4	1	10.14	10.17	△3	10.3	10.3	0	
主茎長 (cm)	6月20日	—	9.9	—	5	7.8	△2.8	—	9.9	—
	7月20日	21.3	34.6	△11.1	20.9	29.9	△9.0	21.3	36.6	△15.3
	8月20日	60.4	51.5	8.9	64.3	63.9	0.4	53.5	46.8	6.7
	9月20日	61.3	51.1	10.2	66.7	65.3	1.4	55.4	45.8	9.6
	成熟期	62.6	51.8	10.8	67.3	64.3	3	53.3	46.1	7.2
主茎節数 (節)	6月20日	—	3	—	2.1	2.9	△0.8	—	3.3	—
	7月20日	6.1	8.8	△3.1	5.8	8.7	△2.9	1	2.3	△1.3
	8月20日	12.8	12.2	0.6	13.5	15	△1.5	12.4	12	0.4
	9月20日	13.1	12.5	0.6	14.2	15.1	△0.9	12.2	11.7	0.5
	成熟期	12.7	12.4	0.3	14.4	15.1	△0.7	12.6	11.9	0.7
分枝数 (本/株)	7月20日	1.4	4.1	△2.7	1	2.3	△1.3	0.5	3.4	△2.9
	8月20日	6.7	6.3	0.4	5.8	4.8	1	4.4	4.4	0
	9月20日	5.7	5.8	△0.1	5.5	5.2	0.3	4	4.4	△0.4
	成熟期	7.2	6.6	0.6	5.9	5.4	0.5	5	4.8	0.2
着莢数 (莢/株)	9月20日	64	59	5	52.1	63.3	△11.2	49.3	51.1	△1.8
	成熟期	59.4	59.6	△0.2	50.9	68	△17.1	49	51.5	△2.5
一莢内粒数(粒)	1.94	1.85	0.09	1.98	1.79	0.19	2.05	1.86	0.19	
子実重(kg/10a)	329	318	11	315	328	△13	282	312	△30	
百粒重(g)	37.3	43.3	△6.0	39.8	42.7	△2.9	39	45.4	△6.4	
屑粒率(%)	2.8	0.2	2.6	1.3	0.2	1.1	1.8	0.5	1.3	
品質(等級)	1	3上	—	2上	3上	—	特加	2下	—	
子実重平年対比(%)	103	100	3	96	100	△4	90	100	△10	

注1) 平年値は前7か年中、平成元年、6年を除く5か年平均。「ツルムスメ」の平年値は前6か年の平均。ただし、6月の主茎長、主茎節数は平成4年欠測、7月の主茎長、主茎節数、分枝数は平成5年欠測、成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数、稔実莢数は平成6年欠測。

注2) 「ツルムスメ」は作況試験圃の出芽個体数が著しく少なく、調査個体数を確保できなかったため、育成系統生産力検定試験圃を調査箇所とした。

注3) 本年の子実重、百粒重は水分15%換算値である。

注4) 品質等級の特加は特定加工用を示す。

4. 小豆 平成8年度の作況:不良

事由:播種期は平年より12日遅れの5月31日となった。播種後は6月中旬の降雨までは干ばつ気味に経過した。また、この間の気温や地温も低めに経過した。このため出芽は不揃いとなり、出芽期は平年より17日遅れの6月24日となった。その後の気象も低温寡照に経過し、7月20日時点で、主茎長は平年並であるが、主茎節数と分枝数は平年を大きく下回った。

7月中旬からの多雨で圃場が過湿状態となり、7月下旬から茎疫病が発生した。その後も多雨過湿傾向で夜温が高めに経過したことから、病兆は急激に進展した。8月20日時点で、試験区個体の半数は枯死し、他の個体も著しく罹病して健全個体が皆無のため、調査不能の状態となった。9月になって病徴はさらに進展し、生存個体はほとんどなくなった。このような状況から、調査の続行は困難と判断し、8月以降は茎疫病の発生が比較的少なかった別試験区で調査を行った。

8月以降も生育の遅れは回復せず、成熟期は平年より7日遅かった。別試験区においても茎疫病が進展し、そのため着莢数は平年対比81%と少なかった。一莢内粒数は平年並であったが百粒重は平年を下回った。このため子実重は平年対比78%となり、平年を大きく下回った。品質も3等下と平年より劣った。

以上により、平成8年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	エリモショウズ		
	本年	平年	比較
播種期(月.日)	5.31	5.19	12
出芽期(月.日)	6.24	6.7	17
開花期(月.日)	(8.2)	7.25	-8
成熟期(月.日)	(9)	9.9	-7
主茎長 (cm)	6月20日	-	4.5
	7月20日	12.9	13
	8月20日	(39)	34.2
	成熟期	(38)	33.7
主茎節数 (節)	6月20日	-	1.6
	7月20日	3	6.6
	8月20日	(11)	11.5
	成熟期	(11)	10.5
分枝数 (本/株)	7月20日	0	1.6
	8月20日	(4)	2.8
	成熟期	(2)	2.4
着莢数 (莢/株)	8月20日	(32)	29.4
	9月20日	(33)	39.2
	成熟期	(33)	40.6
一莢内粒数(粒)	(7)	6.6	-0.08
子実重(kg/10a)	(196)	251	(△55)
百粒重(g)	(11)	12.7	(△1.3)
屑粒率(%)	(3)	1.5	-1.2
品質(等級)	(3下)	2下	-
子実重平年対比(%)	(78)	100	(△23)

注1) 平年値は前7か年中、平成3年、6年を除く5か年平均。

注2) ()内は、茎疫病発生の少なかった別試験区1反復(10個体)のみの平均のため、参考値である。

5. 菜豆 平成8年度の作況:不良

事由:5月中下旬が降雨がちで播種作業が遅れ、播種は平年より7日遅い5月30日に行った。播種後は6月上・中旬の低温干ばつによってさらに出芽が遅れ、出芽期は平年より13日遅れの6月24日となった。その後も低温寡照に経過したため出芽後の生育は不良で、開花期は平年より13日遅れた。7月中旬から8月上旬の多雨過湿による湿害の影響を受けてからは特に著しく生育量が平年を下回った。このため、生育の遅れは回復せず、成熟期は平年より12日遅れた。最終的には着莢数は平年の2割以下と少なく、一莢内粒数も平年を大きく下回った。著しい生育遅延と9月上旬までの湿害の影響で百粒重は平年を約14g下回った。このため子実重は24kg/10a、平年対比10%と著しく少なかった。成熟期前後の降雨が少なかったため屑粒率は低く品質は1等と良好であった。以上により、平成8年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	改良早生大福			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.3	5.23	7	
出芽期(月.日)	6.24	6.11	13	
開花期(月.日)	7.31	7.18	13	
成熟期(月.日)	9.17	9.5	12	
主茎長 (cm)	6月20日	—	17.2	—
	7月20日	108	204	△96
	8月20日	184	269	△85
	成熟期	175	268	△93
主茎節数 (節)	7月20日	10	15.1	△5.1
	8月20日	16.5	20.6	△4.1
	成熟期	15.7	21	△5.3
分枝数 (本/株)	7月20日	0.7	3.3	△2.6
	8月20日	0.3	3.1	△2.8
	成熟期	0.1	2.8	△2.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	8.4	33.4	△25.0
	成熟期	5.7	33.5	△27.8
一莢内粒数(粒)	2.85	4.09	△1.24	
子実重(kg/10a)	24	235	△211	
百粒重(g)	51.3	65	△13.7	
屑粒率(%)	1.8	4.6	△2.8	
品質(等級)	1	2	—	
子実重平年対比(%)	10	100	△90	

注) 平年値は前8か年中、平成4年、6年、7年を除く5か年平均。

6. ばれいしょ 平成8年度の作況:良

事由: 植付は平年より7日早い4月26日に行った。植付後、気温は平年より低く推移したため、萌芽期は平年より4日遅れた。萌芽後も気温は平年並か平年より低く推移し茎長、茎数とも平年を下回り、開花期は平年に比べて7日遅かった。開花後、7月に入って第2半旬を除いて気温は平年並から平年より高く推移したため、茎数は平年をやや下回ったが茎長は平年を上回り地上部の生育はほぼ平年並に回復した。

早生種の「男爵薯」は8月上旬から黄変が始まったが、その後気温が平年並か平年よりやや低く、圃場が適湿に経過したため、平年より6日遅れの8月25日に枯凋期に達し、中晩生種の「農林1号」は平年より18日遅れの9月26日に枯凋期に達した。

塊茎の肥大は、7月中旬、8月上旬後半から下旬前半までの気温が平年より高く推移し、8月中旬から下旬の日照時間が平年並から平年を上回ったため比較的良好で、株当たりも数およびでん粉価は平年をやや下回ったが一個重が平年を上回った。そのため、「男爵薯」の上いも重、中以上いも重の平年対比はそれぞれ125%、142%、「農林1号」の上いも重、中以上いも重の平年対比はそれぞれ107%、114%と両品種とも多収であった。

以上により、平成8年度の作況は良である。

品種名 項目/年次		男爵薯			農林1号		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月.日)		4.26	5.3	△ 7	4.26	5.3	△ 7
萌芽期(月.日)		5.3	5.26	4	5.3	5.26	4
開花期(月.日)		7.4	6.27	7	7.5	6.28	7
枯凋期(月.日)		8.25	8.19	6	9.26	9.8	18
茎長 (cm)	6月20日	28	32	△ 4	28	33	△ 5
	7月20日	47	40	7	57	53	4
	8月20日	—	—	—	62	54	8
茎数 (本/株)	6月20日	3.7	4.8	△ 1.1	3.7	4.9	△ 1.2
	7月20日	3.8	4.6	△ 0.8	4.1	4.8	△ 0.7
	8月20日	—	—	—	4.1	4.9	△ 0.8
上いも数(個/株)		9	10.2	△ 1.2	9.4	10.8	△ 1.4
上いも平均一個重(g)		99	79	20	106	96	10
上いも重(kg/10a)		3,942	3,155	787	4,429	4,143	286
中以上いも重(kg/10a)		3,467	2,440	1,027	4,114	3,601	513
でん粉価(%)		14.9	15.6	△ 0.7	16.2	16.5	△ 0.3
でん粉重(kg/10a)		548	458	90	673	640	33
上いも重平年対比(%)		125	100	25	107	100	7
中以上いも重平年対比(%)		142	100	42	114	100	14
でん粉重平年対比(%)		120	100	20	105	100	5

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。

上いも数および平均一個重は栽植密度変更(平成4年)のため参考値。

「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

7. てんさい 平成8年度の作況:やや良

事由: 播種は平年より2日早い4月2日に行なった。発芽は良好で4月9日には発芽期に達した。4月下旬は好天に恵まれたため、移植期は平年より9日早い5月2日であり、活着は良好であった。しかし移植後、低温、多雨、寡照に経過したため、5月20日には葉数は平年並であったが、草丈は平年よりやや短かった。その後も、気温はやや低く推移したが、降水量は平年並であった。このため、生育は順調に進み、6月20日には草丈、葉数とも平年並となった。

さらに、6月下旬後半と7月上旬後半を除いて気温は概ね平年並に推移し、7月中旬以降は平年を上回った。また、土壤水分も適湿に経過したため、7月20日には葉数はほぼ平年並であったが、草丈は平年を上回り、根周は平年を2.1cm上回った。しかし、6月中旬以降一貫して寡照に推移したのに加え、7月下旬は極端な日照不足にみまわれた。このため、根部の肥大はやや緩慢になり、8月20日には地上部の生育は平年を上回ったが、根周は平年並となった。

その後も、8月下旬から9月上旬の低温、9月上旬から9月中旬の寡照により、根部の肥大は緩慢であった。このため、9月20日には地上部の生育は平年を上回ったが、根周は平年をやや下回った。

しかし9月中旬以降、気温はやや高く推移したため、根部の肥大は再び旺盛となった。

収穫期は平年より1日遅い10月14日で、収穫期の草丈、葉数、根周はいずれも平年を上回った。10a当り根重は7.90tで平年比102%、根中糖分は17.12%で同103%、糖量は1349kgで同105%といずれも平年を上回った。

以上により、平成8年度の作況はやや良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノホマレ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.2	4.4	△ 2
移植期(月.日)		5.2	5.11	△ 9
収穫期(月.日)		10.14	10.13	1
草丈 (cm)	5月20日	4	5	△ 1.0
	6月20日	26.4	27.9	△ 1.5
	7月20日	55.8	49.3	6.5
	8月20日	65.5	55.3	10.2
	9月20日	65.6	55.1	10.5
	収穫期	65.3	52.1	13.2
葉数 (枚)	5月20日	2.7	2.7	0
	6月20日	11.9	10.5	1.4
	7月20日	19.7	19.2	0.5
	8月20日	25.7	22.4	3.3
	9月20日	29.7	26.8	2.9
	収穫期	28.9	27.1	1.8
根周	7月20日	23.1	21	2.1

(cm)	8月20日	29.9	29.8	0.1
	9月20日	32.8	34.3	△ 1.5
	収穫期	36.4	35.4	1
茎葉重(t/10a)		5.03	3.86	1.17
根重(t/10a)		7.9	7.72	0.18
根中糖分(%)		17.12	16.57	0.55
糖量(t/10a)		1,349	1,279	70
根重平年対比(%)		102	100	2
根中糖分平年対比(%)		103	100	3
糖量平年対比(%)		105	100	5

注) 平年値は前7か年中、平成3年、4年を除く5か年平均。

ただし、草丈、葉数、根周の平年値は欠測の平成5年も除く4か年平均。